葦毛通信（いもう）

アオマダラタマムシ

令和２年７月 16 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町３丁目１
TEL：0532-56-6060

No. 96

1、2020 年モニタリング報告ー2

葦毛湿原ではミミカキグサ、モウセンゴケが開花し始めました。これから夏の花が本格的に咲いていきます。

１）Ｐ地点

Ｐ地点は 2018 年度に木の伐採と抜根、2019 年度に仮置きした木の根の山を移動させたところです。抜根後１年目は植物の発芽は周辺部の水分が多い所で少数が発芽しました(右上写真)が、中央部の乾燥しているところは植物の発芽が少なく、広い裸地状態でした。

今年は抜根作業後２年目でまばらに植物が発芽しました(右下写真)。やや乾燥した中央部からはマネキシンジュガヤ、コシンジュガヤ、イヌノハナヒゲ、ヌマガヤ、アブラガヤ、エナシヒゴクサ、サワヒヨドリ、ミズギボウシが点々と見られ、アリノトウグサがあちこちに小さな群落を作っています。フモトスミレも目立って多くなってきました。来春には多くの花を咲かせると思います。木本ではハギやイヌザンショウが点々と見られ、イソノキやノリウツギも実生で発芽し順調に成長してきています。

Ｐ地点抜根作業後１年目(2019 年 7 月 27 日)

Ｐ地点抜根作業後２年目(2020 年 7 月 15 日)

周辺の水分が多い所（次頁写真）は順調に湿地として再生しています。イヌノハナヒゲが大きな群落を作り、ヌマガヤ、マネキシンジュガヤ、

ケシンジュガヤ、サワシロギク、コケオトギリ、タチツボスミレが見られるようになりました。木本では実生で発芽したイソノキやノリウツギのほかにクロミノニシゴリも 15～20 cmの高さですが花を咲かせました。今年は他の地点でも実生で発芽した小さなクロミノニシゴリがあちこちで開花していました。

抜根作業後１年目（2019 年 8 月 15 日）　　抜根作業後２年目（2020 年 7 月 15 日）

２）Ｊ地点実験区

Ｊ地点にはＪ－10・11・12 の３か所の実験区を設置しました。１年後の状況は葦毛通信 No. 85 に掲載しています。今年は作業後２年目にあたります。

Ｊ－10 実験区

Ｊ－10 実験区はＪ地点の南西隅にあり、１年目(右写真左側)は画面奥にコシンジュガヤが出現

１年目(2019 年 7 月 20 日)　Ｊ－10　２年目(2020 年 7 月 10 日)

しましたが、手前は植物が少ない状態でした。右側の写真は２年目の現在の状況ですが、全体にイヌノハナヒゲが広く出現し、奥にはコシンジュガヤ、手前にはキセルアザミがあります。画面最奥部は森の中にわずかに湿地として残っていた部分ですが、現在はイヌノハナヒゲが優勢になり、ヌマガヤ、アブラガヤ等が少数混じっています。ミズギボウシもあり、予想通り良好な湿地に戻りつつあります。

Ｊ－11 実験区

Ｊ－11 実験区はＪ－10 の下流（北側）に設置しました。１年目の写真を見ると手前に小さな水溜りがあり、その奥が湿っているのが見えます。画面中央から左奥にかけて水が流れており、Ｊ－10 よりさらに上流から流れてきています。２年目になるとこの水の流れがあるところを中心に奥側がイヌノハナヒゲの大群落になり、手前側ではイ、アブラガヤ、アオコウガイゼキショウ、タマコウガイゼキショウ、ホタルイ、ミカヅキグサ、ヒメシロネ、ミズギク等が出現しました。

１年目(2019 年 7 月 20 日)　**Ｊ－11**　**２年目**(2020 年 7 月 10 日)

Ｊ－12 実験区

Ｊ－12 実験区はＪ－11 の下流側でヤマザクラの北側になります。２年目は１年目より目立って植物が多くなっていますが、Ｊ－10･11 実験区のようにイヌノハナヒゲが優勢にはなっていません。

手前の池状になっているところを中心にムラサキミミカキグ

１年目(2019 年 7 月 20 日)　**Ｊ－12**　**２年目**(2020 年 7 月 10 日)

サ、ホザキノミミカキグサ、ヒメシロネ、チゴザサ、イ、ホタルイ、シカクイ、アオコウガイゼキショウ、ヌマガヤ、アブラガヤ等が見られます。

画面奥はササが優勢になっているところで、１年目はササの根の除去作業前の状態、２年目はササの根を除去後、６月末にササの刈り取りを行った直後で乾燥した裸地状態になっています。今年は定期的にササの刈り取りを行うことでササを衰退させることができるかどうかの実験を行っています。

３）Ｑ地点

Ｑ地点は木の伐採のみで抜根は行いませんでした。右の写真は６月の定期作業で、アメリカセンダングサ等の外来種の駆除を行っている時のものです。Ｑ地点全体が旧水田部分にあたりますが、その北東隅を見ているところです。この部分は伐採作業の時に水が地表面に見えていたところで、すぐに湿地に戻ると予想していたところです。水田の下段部分では画面中央にはミゾソバが大きな群落を作り、イ、コウガイゼキショウの仲間があります。

Ｑ地点北東側下段水田(2020 年 6 月 16 日)

Ｑ地点北東側上段水田(2020 年 6 月 16 日)

右下写真は水田の上段部分ですが、やや水が多く、イ、ミゾソバ、イヌノハナヒゲ、ハイチゴザサ、シラスゲが見られ、写真中央部でヌマトラノオが 50 個体以上出現しました。ヌマトラノオは葦毛湿原ではほとんど見られなくなっていましたが、木を伐って明るくし、落ち葉や枝等を除去することによって、この地点で復活しました。かつて、水田が放棄された後に良好な湿地に戻っていた時期があり、この時の埋土種子が残っていたものと思われます。